

令和2年度 広島大学留学生の学習と生活に対する支援調査結果概要報告

はじめに

本報告は、令和3年1月～2月にかけて実施した本学の留学生対象のアンケート調査「広島大学留学生の学習と生活に対する支援調査」の結果を集約したものである。

広島大学には1,800人以上の留学生が在籍しており(アンケート開始時点)、彼らが直面する生活・修学上の多様な課題を解決すべく、留学生支援ネットワークは定期的に連絡会議を開催し、情報共有および支援体制の構築に努めている。そこで議論される対象は多岐にわたり、効果的効率的な留学生支援のためには状況把握が重要であるという共通認識のもと、今年度も留学生に対する支援調査を実施することとなった。

本調査の内容および構成は、留学生支援ネットワークのメンバーによって作成され、本学学生向け情報ポータルサイト「もみじ」内「アンケート」機能を用い、全留学生に調査を行った。

令和2年度の留学生支援ネットワークメンバーは以下のとおりである。

ハラスメント相談室
保健管理センター
アクセシビリティセンター
グローバルキャリアデザインセンター
学生生活支援グループ
霞地区運営支援部国際室
留学生担当教員
グローバル化推進グループ

I. アンケートの調査方法と内容

アンケート調査票は広島大学に在籍する全留学生 1,850 名を対象とし、回答数は 712 名であった（回収率は 38%）。

アンケート調査項目は日本語と英語を併記した。

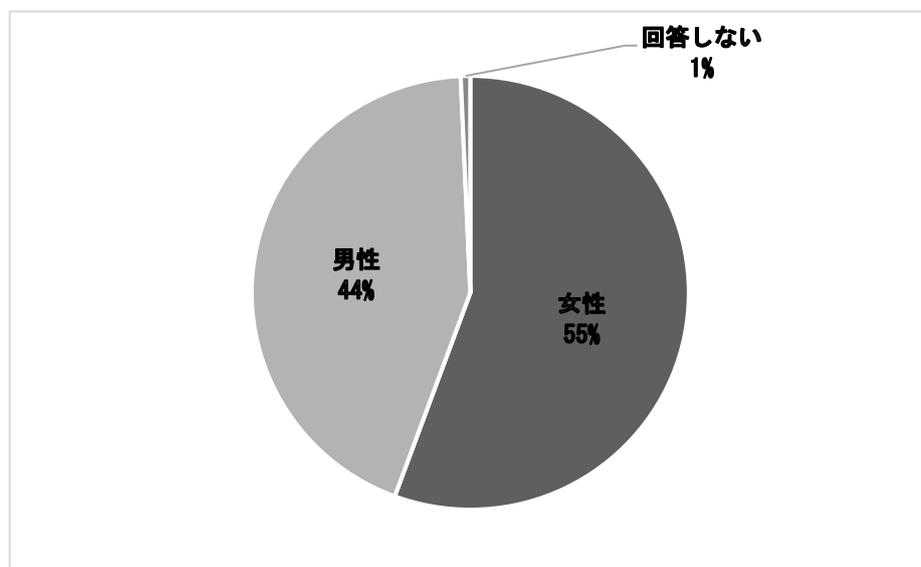
アンケートは昨年とほぼ同じ項目を用いているが、今年度アンケートでは新型コロナウイルス感染拡大による影響に関する設問を追加した。内容は 7 つに分かれており、1) 一般的な質問、2) コミュニケーション言語について、3) 広島大学と指導教員について、4) 学生生活支援について、5) 広島大学における学習、生活に関する満足度、6) 新型コロナウイルス感染拡大の影響について、7) 自由記述である。

回答者は、質問によって対象者が異なっていること、一部の質問に回答していないなどの無回答などもあるために、質問によって全回答者数に違いがある。

II. アンケート調査結果

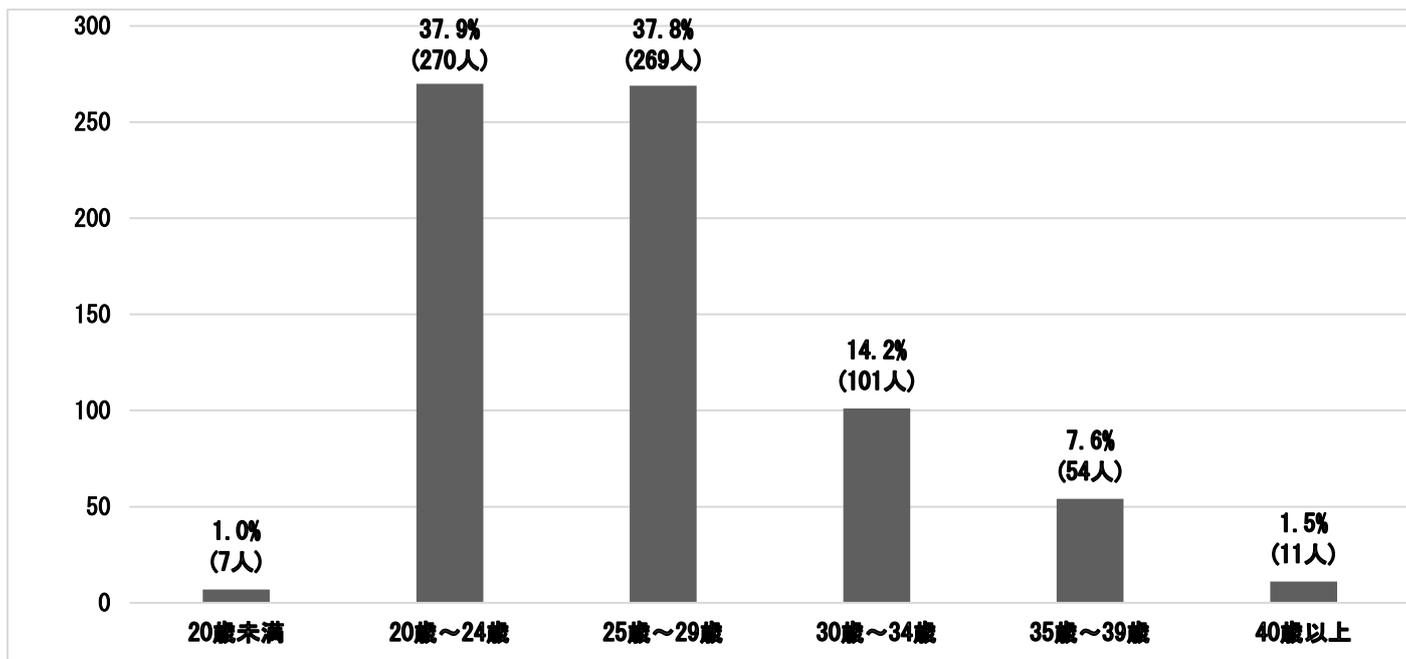
1. 一般的な質問

1.1 性別（有効回答 712）



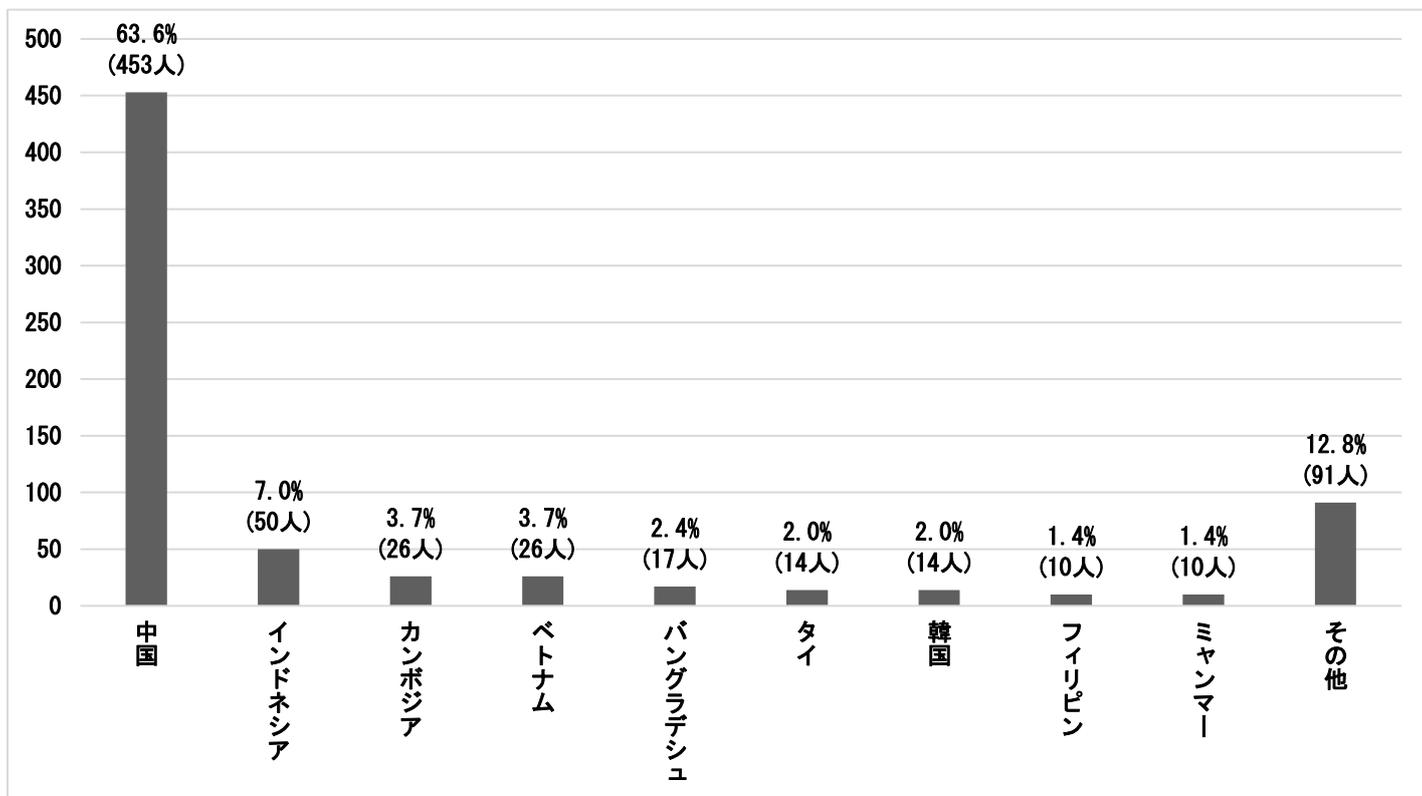
令和 2 年 11 月 1 日時点の留学生全体の男女比と比較して、大きな差はみられなかった。

1.2 年齢（有効回答 712）



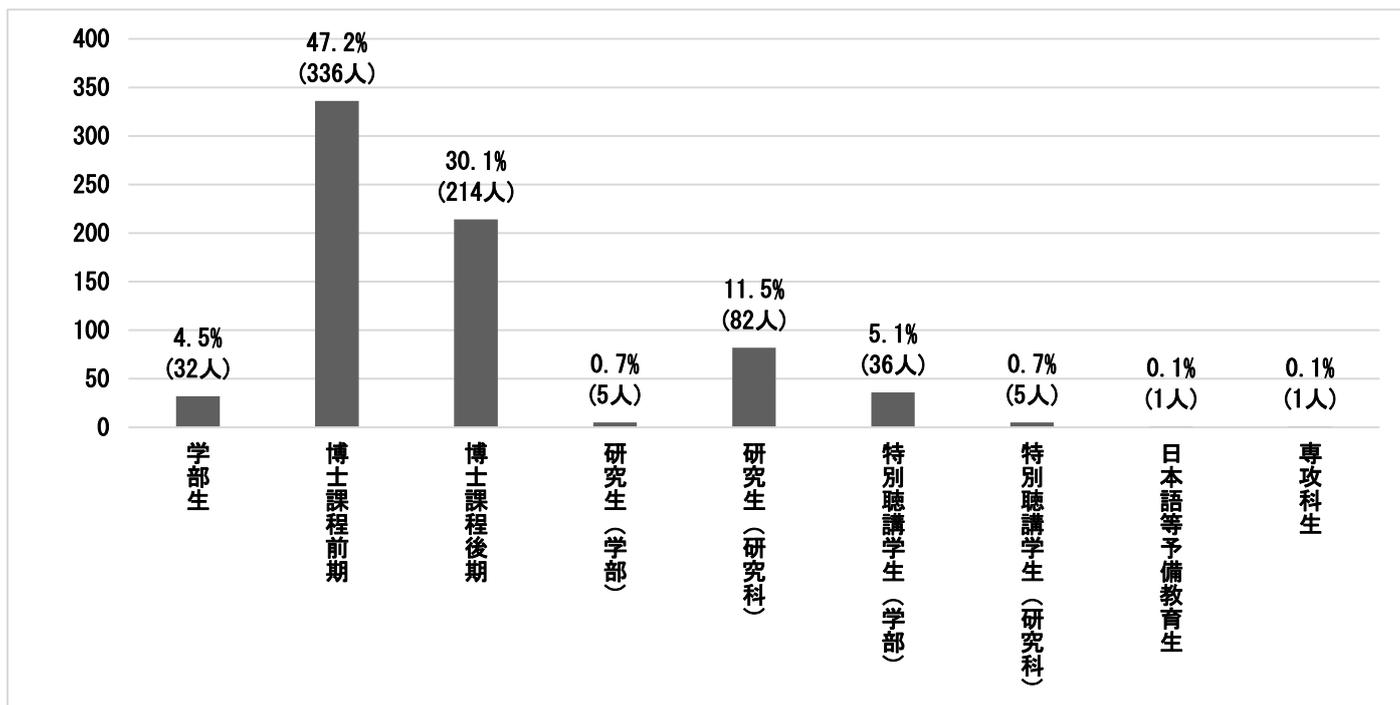
20代が回答者全体の約8割を占める結果となった。

1.3 出身国・地域（有効回答 711）



回答者のおよそ6割が中国出身で、令和2年11月1日時点の留学生全体の比率とほぼ一致する。その他も、出身者の数に比例して回答が多くなる傾向が見られた。

1.4 学籍（有効回答 712）

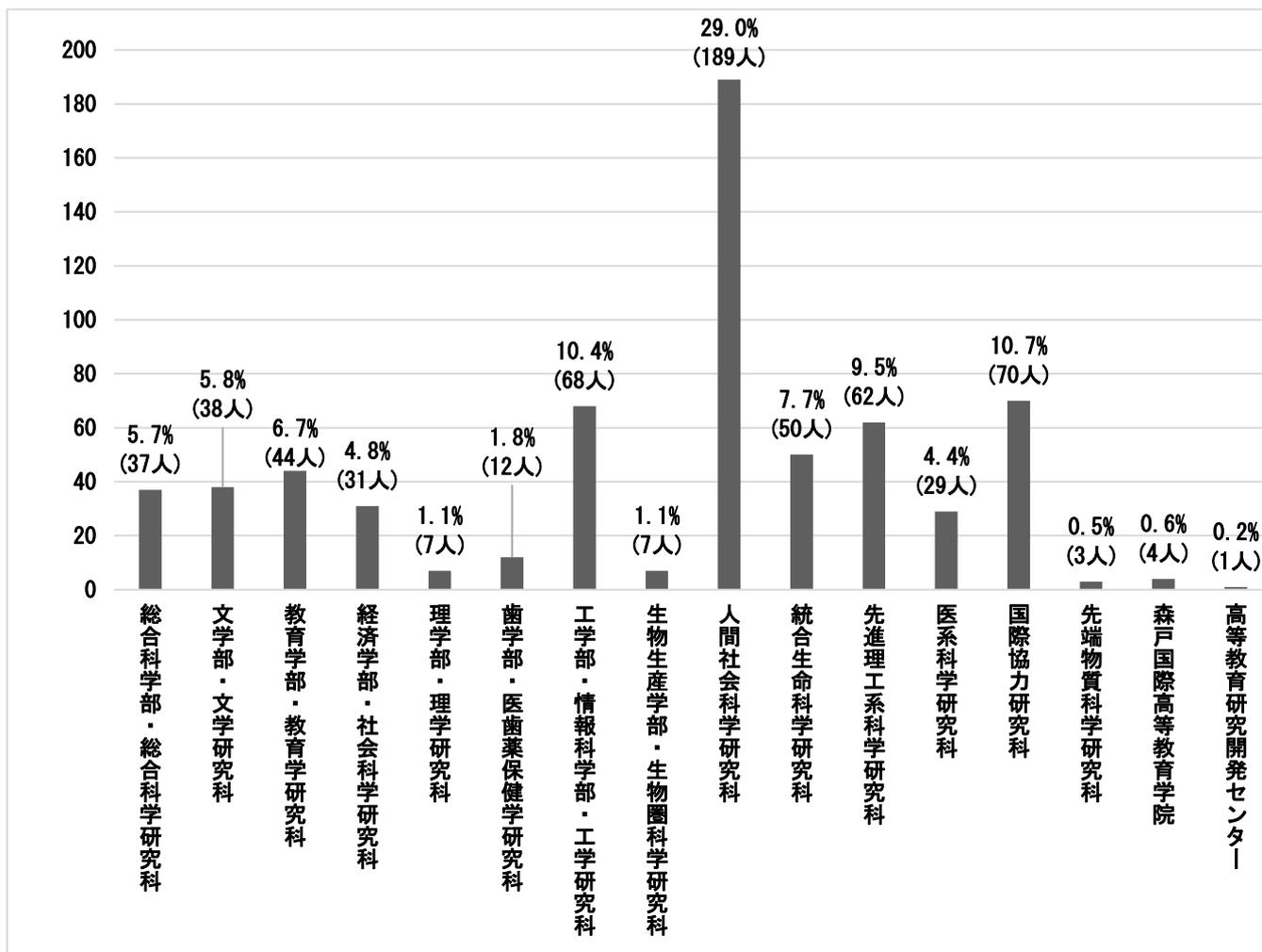


全体の約 8 割が大学院学生からの回答であった。

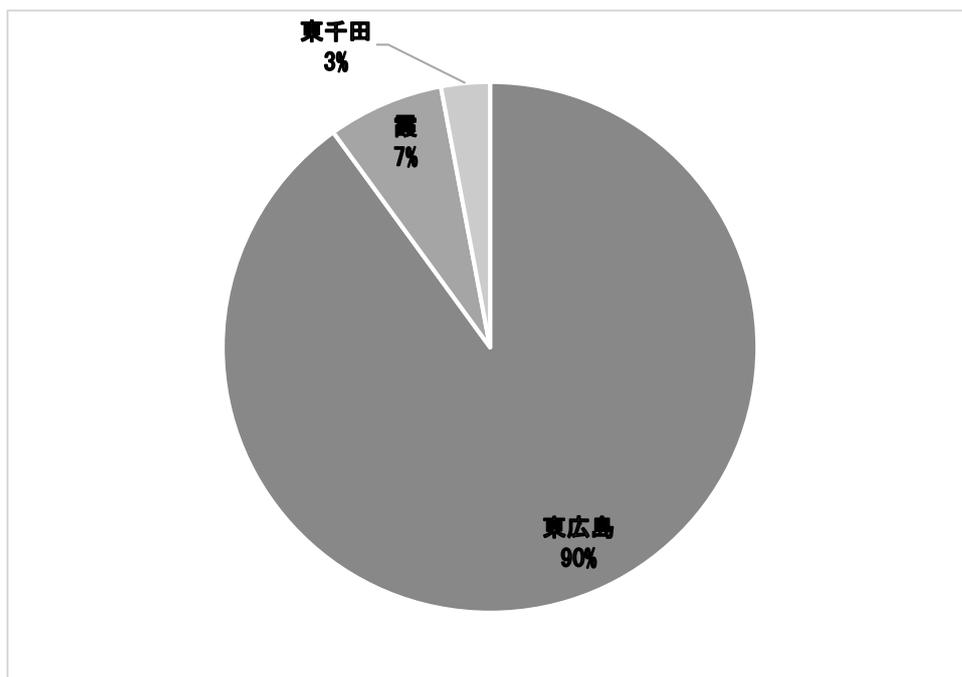
	学部生	博士課程前期	博士課程後期	外国人 研究生	特別聴講学生 (学部)	特別聴講学生 (研究科)	日本語予備教育生	特別研究学生
全体	6.7%	49.4%	32.8%	9.2%	1.6%	0%	0.07%	0.14%
回答者	4.5%	47.2%	30.1%	12.2%	5.1%	0.7%	0.1%	0%

それぞれの数値を大学の留学生全体に占める割合（R2.11.1 現在）と比較し、特に学部生の回答率が低い傾向が見られた。この傾向は、前年度同様である。一方で、昨年度回答率の低かった外国人研究生については、回答率が改善している。今年度は調査の案内をもみじ掲示のみならずメールでも行ったため、普段もみじをあまり使用しない層にも情報がいきわたったことが要因として考えられる。

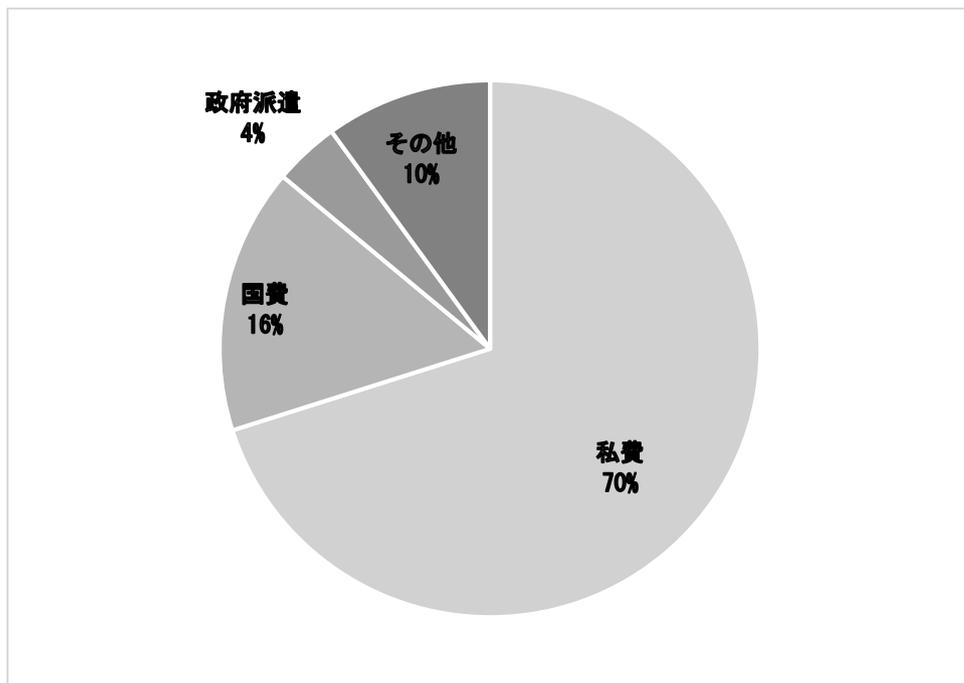
1.5 所属 (有効回答 652)



1.6 地区 (有効回答 712)

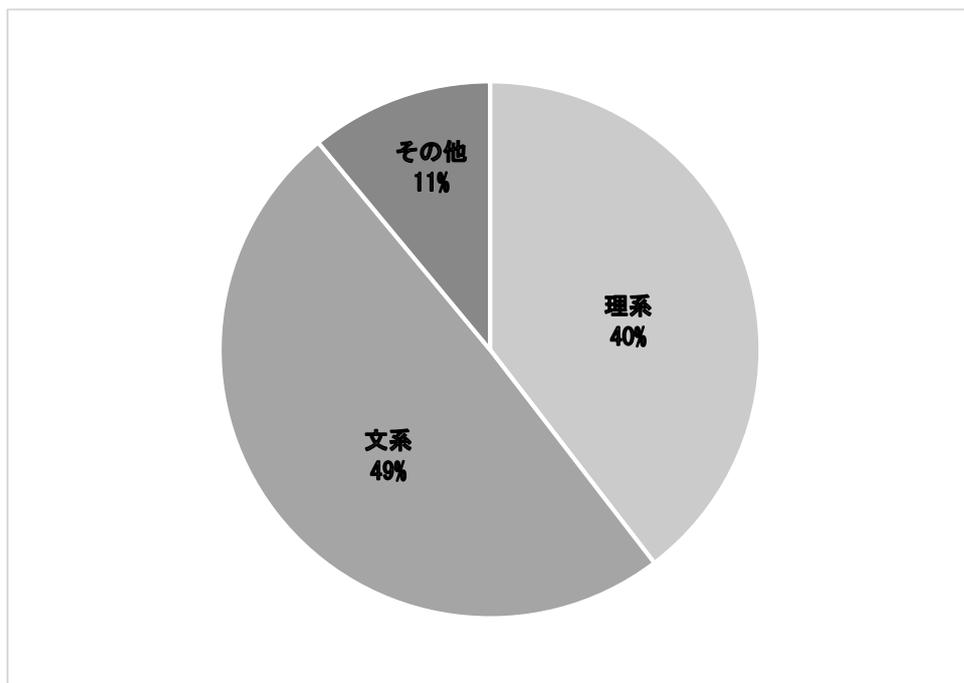


1.7 私費・国費（有効回答 712）



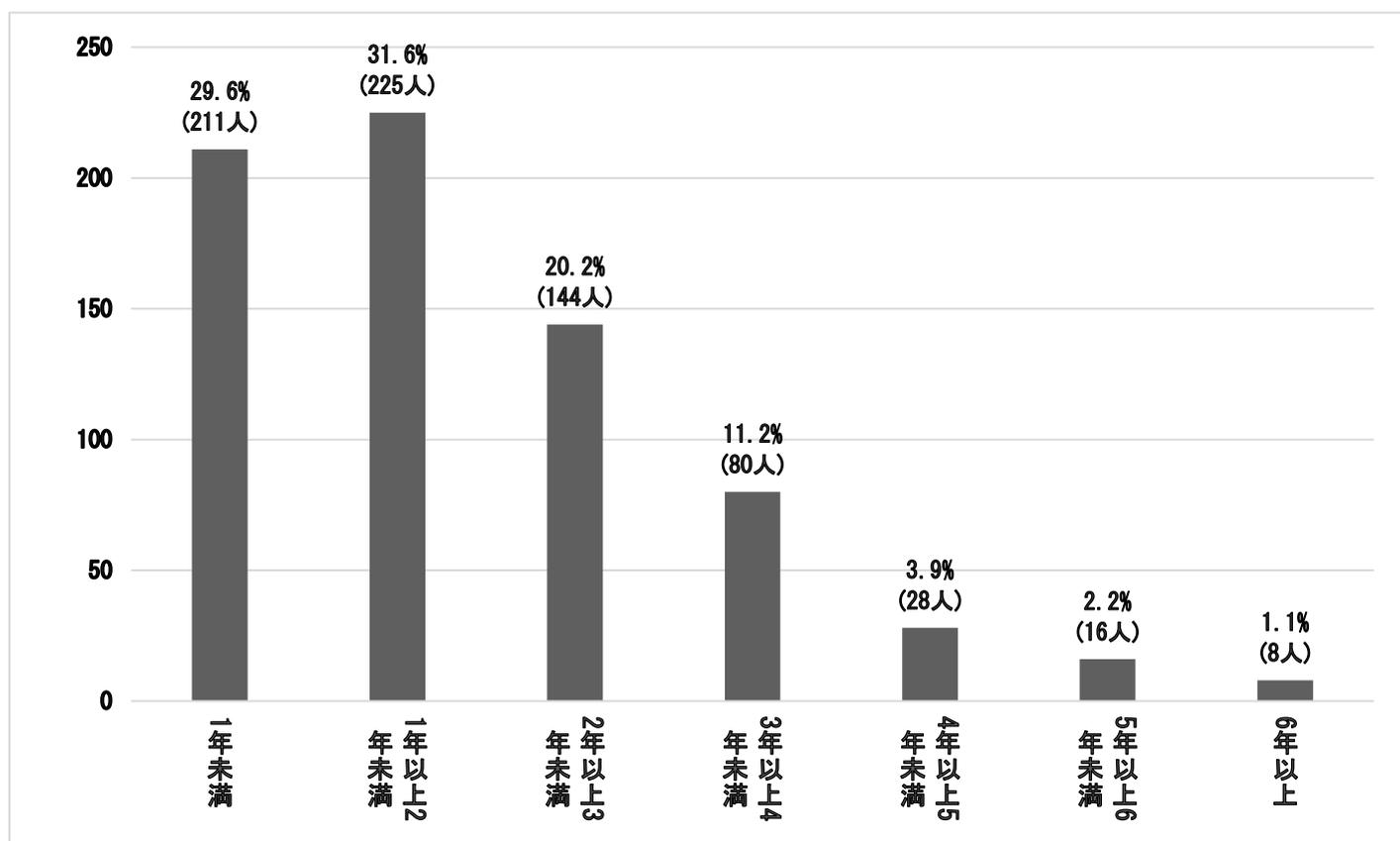
それぞれの数値を大学の留学生全体に占める割合と比較し、特に差異は見られなかった。

1.8 専門（有効回答 712）



文系の回答者が全体の約半数を占めている。

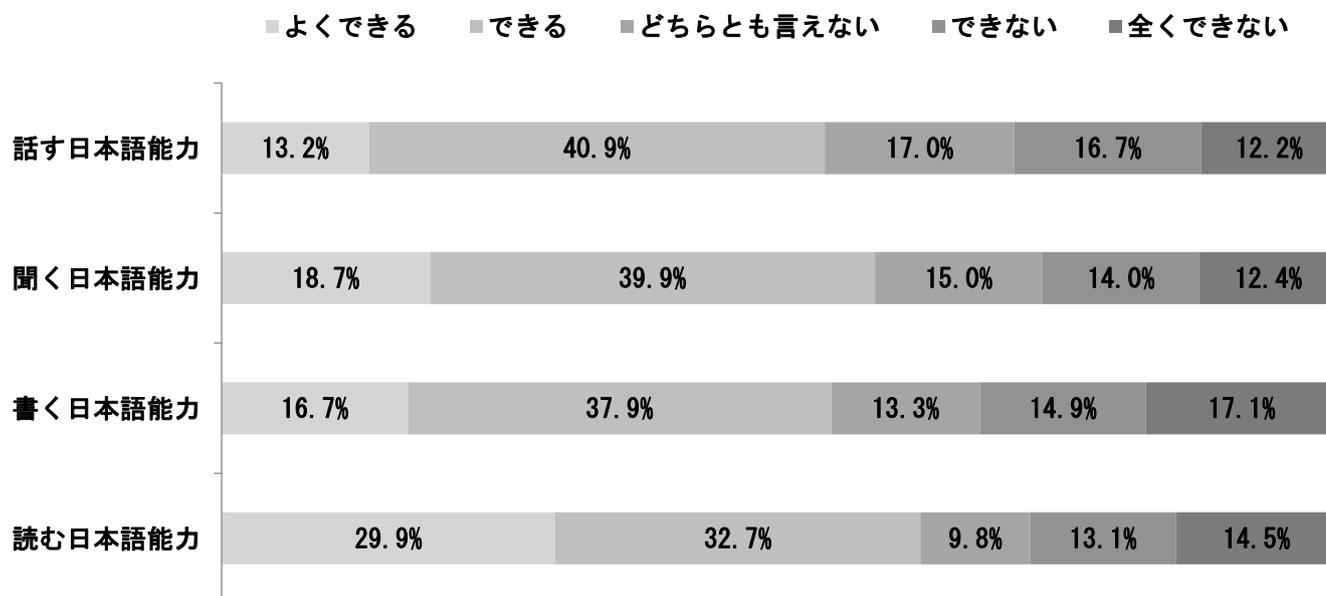
1.9 広島大学での在籍年数（有効回答 712）



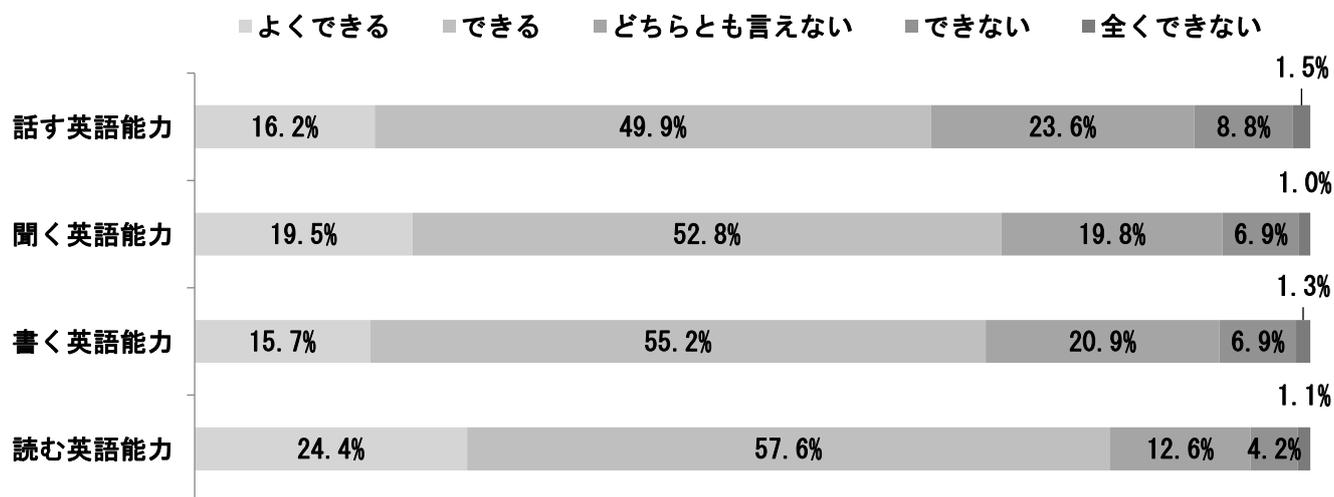
在籍年数が3年未満の回答者が全体の約8割を占めた。

2. コミュニケーション言語と学習について

2.1 あなたの日本語能力はどのくらいですか？（有効回答 712）



2.2 あなたの英語能力はどのくらいですか？（有効回答 712）



「できない」もしくは「全くできない」と答えた学生の割合は、英語においてはいずれの技能でも多くて 10%程度に留まったのに対し、日本語においてはいずれの技能においても 25%を超えている。

		日本語・英語ともに「よくできる」・「できる」		日本語「よくできる」・「できる」／英語「あまりできない」・「全くできない」		日本語「あまりできない」・「全くできない」／英語「よくできる」・「できる」		日本語・英語ともに「あまりできない」・「全くできない」		計 n(人)
		n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	
読む	全体	352	62.1	28	4.9	178	31.4	9	1.6	567
	理系	107	48.2	3	1.4	106	47.7	6	2.7	222
	文系	231	81.9	22	7.8	27	9.6	2	0.7	282
書く	全体	241	49.2	45	9.2	197	40.2	7	1.4	490
	理系	68	35.6	5	2.6	116	60.7	2	1.0	191
	文系	164	68.9	37	15.5	33	13.9	4	1.7	238
聞く	全体	276	56.4	43	8.8	161	32.9	9	1.8	489
	理系	89	46.4	6	3.1	95	49.5	2	1.0	192
	文系	177	74.7	34	14.3	23	9.7	3	1.3	237
話す	全体	225	49.3	53	11.6	172	37.7	6	1.3	456
	理系	72	39.6	10	5.5	97	53.3	3	1.6	182
	文系	146	67.0	40	18.3	30	13.8	2	0.9	218

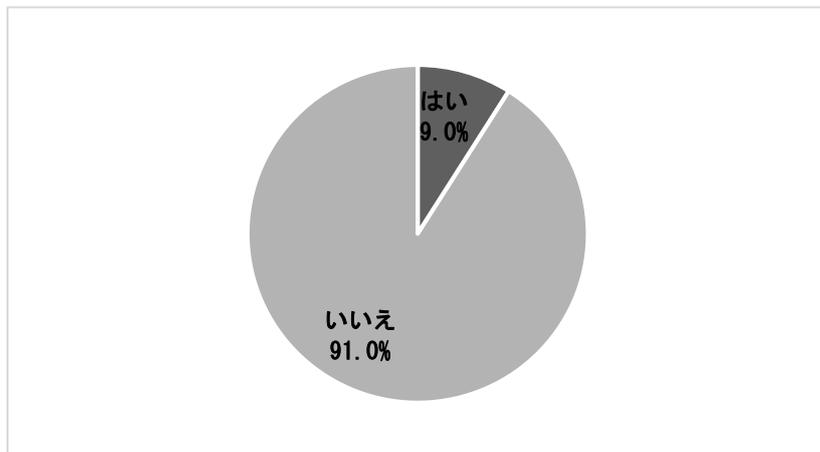
文系の学生については、日本語のいずれの技能についても8割以上の学生が「よくできる」「できる」と回答している。

理系の学生については約半数の学生が英語を中心にコミュニケーションを取っていることが推察できる。

3. 広島大学と指導教員について

3.1 あなたは留学フェアに参加したことがありますか？（有効回答 712）

【回答者全体】



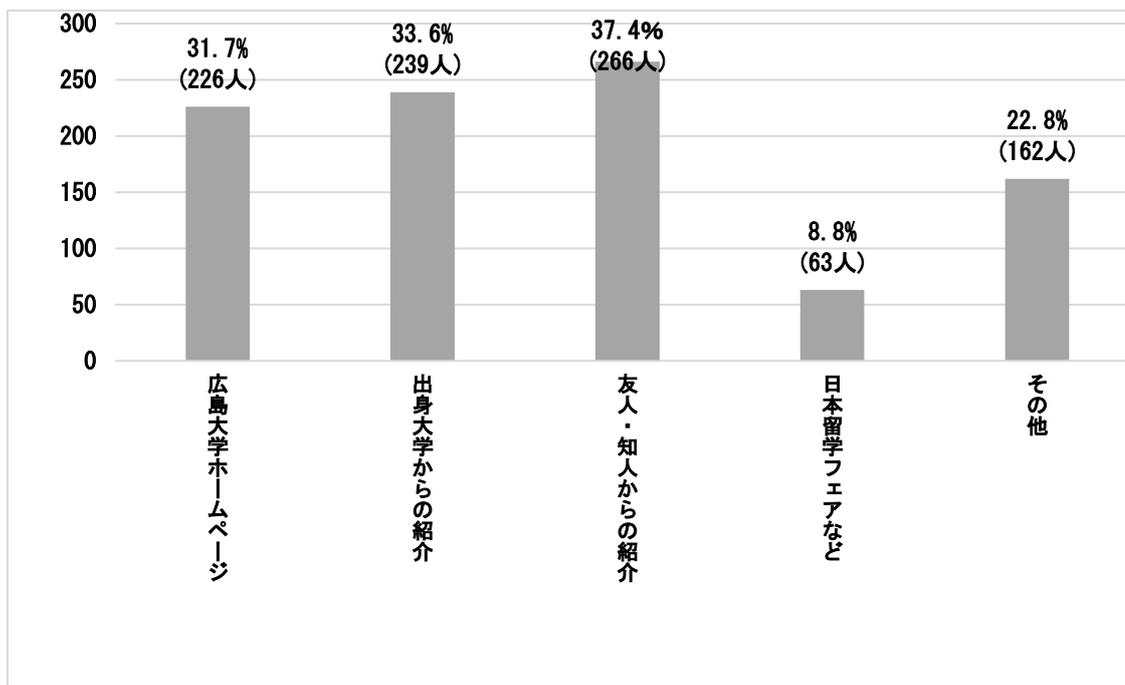
およそ9割の学生が留学フェア参加経験「なし」と回答した。この割合は、前年度調査とほぼ同様である。留学フェアは外国人留学生を獲得するための有力な手段として位置づけられ、本学でも例年複数回出展を行っているが、新型コロナウイルス感染症の世界的流行以降、特に令和3年度からオンラインで大学紹介ブースを出展する機会が増加している。参加経験「あり」と回答する割合が今後どのように変化するか、数年の間注視する必要がある。

【学籍別】

		はい		いいえ		計
		n(人)	%	n(人)	%	n(人)
全体		64	9.0	648	91.0	712
学籍	学部生	4	12.5	28	87.5	32
	博士課程前期	28	8.3	308	91.7	336
	博士課程後期	25	11.7	189	88.3	214
	研究生	2	2.3	85	97.7	87
	特別聴講学生	4	9.8	37	90.2	41
	その他	1	50.0	1	50.0	2

留学フェアへの参加経験を学籍別に比較したところ、特に研究生の参加経験「あり」の割合が全体と比較して少ない特徴が見られた。現在オンライン留学フェアで使用している資料では、指導教員の探し方や研究生を経て大学院に入学するまでのモデルケース等、研究生向けの情報を多く含んでおり、対面参加時と比べてより詳細な情報を提供している。オンライン留学フェアの効果があるのでと予想される来年度以降の結果次第では、留学フェアの資料内容を見直す必要がある。

3.2 あなたは、どんな情報をもとに広島大学を選びましたか？（複数回答可）



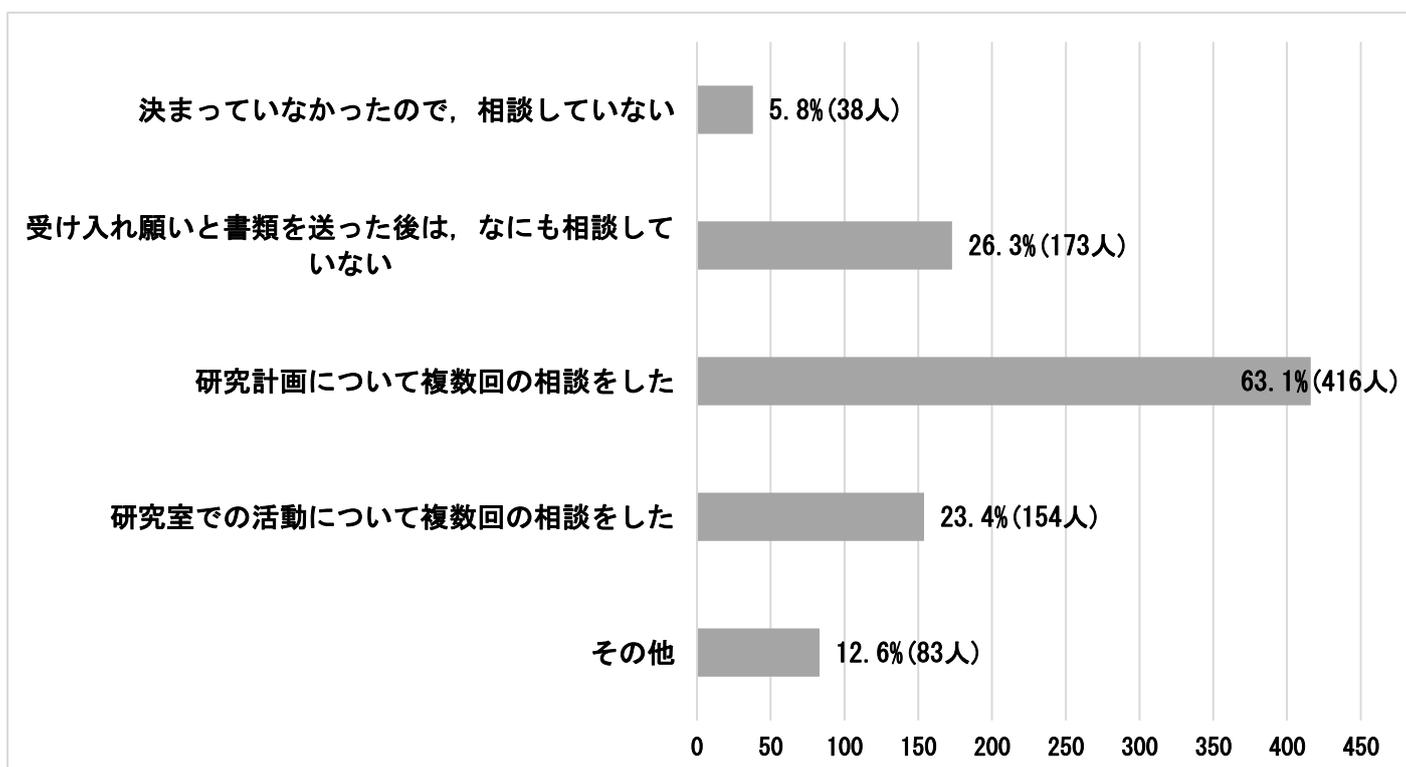
	広島大学 HP		出身大学からの紹介		友人・知人からの紹介		日本留学フェアなど		その他		計	
	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	
全体	226	31.7	239	33.6	266	37.4	63	8.8	162	22.8	712	
学籍	学部生	9	28.1	5	15.6	13	40.6	4	12.5	10	31.3	32
	博士課程前期	110	32.7	108	32.1	102	30.4	35	10.4	78	23.2	336
	博士課程後期	59	27.6	68	31.8	105	49.1	16	7.5	50	23.4	214
	研究生	41	47.1	26	29.9	39	44.8	4	4.6	16	18.4	87
	特別聴講学生	6	14.6	31	75.6	7	17.1	3	7.3	8	19.5	41
	その他	1	50.0	1	50.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	2

全体で「日本留学フェアなど」と回答した割合は8.8%となり、設問18で「はい」と回答した割合(9.0%)とおおよそ一致した。この結果から、留学フェアで広島大学の魅力を適切に伝えられることができていると考えられる。場所を選ばず参加できるオンライン留学フェアは、参加者そのものが増えることで、結果的に学生の獲得に有利に働く可能性があるため、来年度以降の調査結果を注視しつつ、今後の留学フェア参加の参考とする必要がある。

前年度調査からの比較では、「広島大学ホームページ」と回答した割合が上昇（28.0→31.7）しており、複数言語での積極的な情報公開が奏功していると言える。また、今年度新たに公開された「研究者ガイドブック」により、教員の情報を入手しやすくなることで、この割合が上昇傾向となる可能性がある。

3.3 あなたは来日前に指導教員とどのような相談をしましたか？（複数回答可）

【回答者全体】



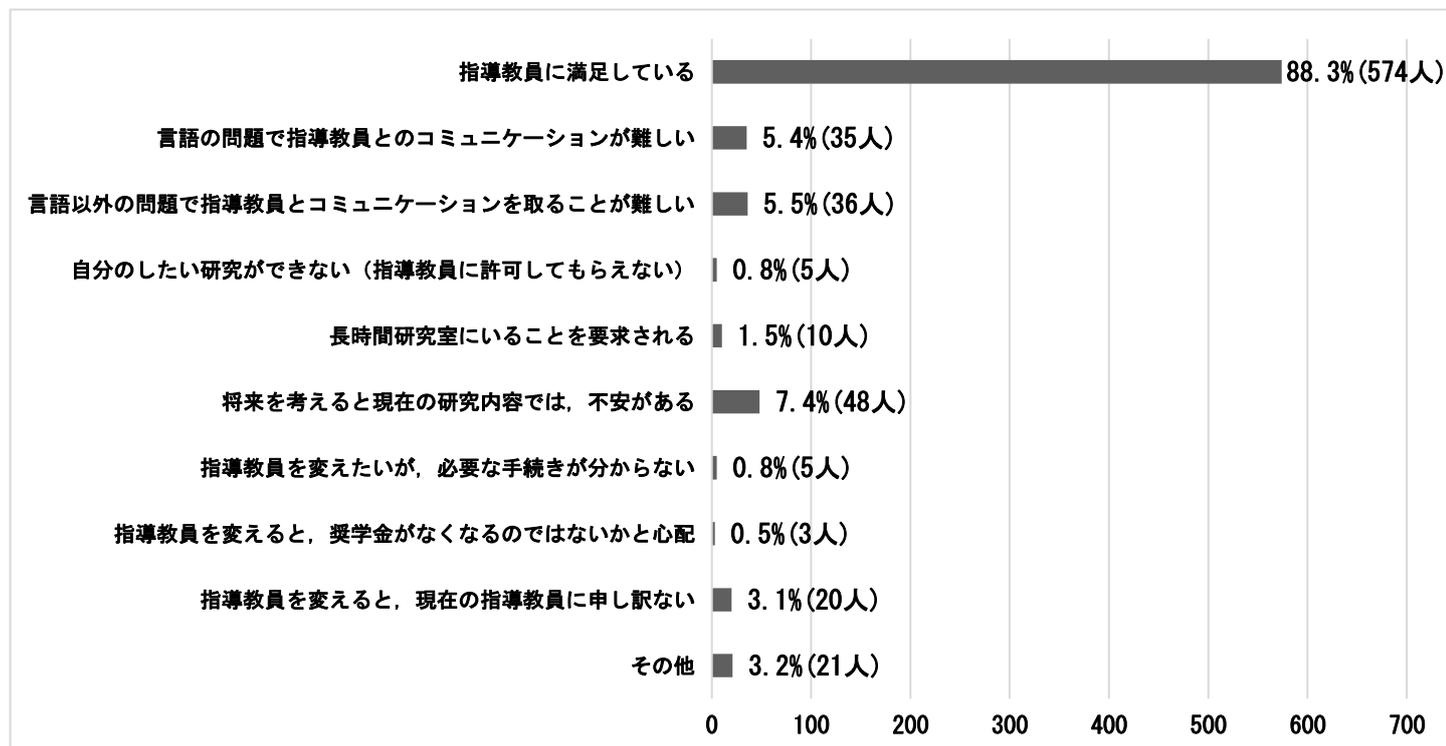
【学籍別】

		決まっていなかったため、相談していない		受け入れ願いと書類を送った後は、なにも相談していない		研究計画について複数回の相談をした		研究室での活動について複数回の相談をした		その他		計 n(人)
		n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	
全体		38	5.8	173	26.3	416	63.1	154	23.4	83	12.6	659
学籍	学部生	5	55.6	0	0.0	1	11.1	2	22.2	3	33.3	9
	博士前期	21	6.5	93	28.8	185	57.3	52	16.1	39	12.1	323
	博士後期	7	3.3	50	23.5	156	73.2	73	34.3	24	11.3	213
	研究生	1	1.2	24	28.6	56	66.7	21	25.0	11	13.1	84
	聴講生	2	7.1	6	21.4	18	64.3	6	21.4	6	21.4	28
	その他	2	100	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2

学籍別では、研究内容や研究室での活動について事前の相談を複数回行った割合は、博士課程前期学生においては全体の割合と比較して少なく、博士課程後期学生では多い結果となった。両者の間で設問 35 にて「広島大学での私の研究はうまくいっている」の中で「とてもそう思う」「そう思う」と答えた割合が同じことから、本設問における差異は、今年度調査においては満足度に直結していないと判断できる。これほどの差異が見られる理由として、博士課程前期学生においては、研究生から入試に合格することで、現在の身分になるタイミングではそのようなプロセス特段必要としていなかった可能性が考えられる。

3.4 指導教員との関係において、次のうちどれがあなたにあてはまりますか？（複数回答可）

【回答者全体】



		言語の問題で指導教員とのコミュニケーションが難しい		言語以外の問題で指導教員とコミュニケーションを取ることが難しい		将来を考えると現在の研究内容では、不安がある		計 n(人)
		n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	
全体		35	5.4	36	5.5	48	7.4	650
学籍	学部生	0	0.0	0	0.0	0	0.0	8
	博士課程前期	15	4.7	16	5.0	23	7.1	322
	博士課程後期	14	6.7	14	6.7	13	6.2	209
	研究生	2	2.4	3	3.6	9	10.8	83
	特別聴講学生	4	14.8	3	11.1	3	11.1	27
	その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
専門	理系	17	6.9	13	5.2	11	4.4	248
	文系	13	3.9	19	5.7	31	9.3	335
	その他	5	7.5	4	6.0	6	9.0	67

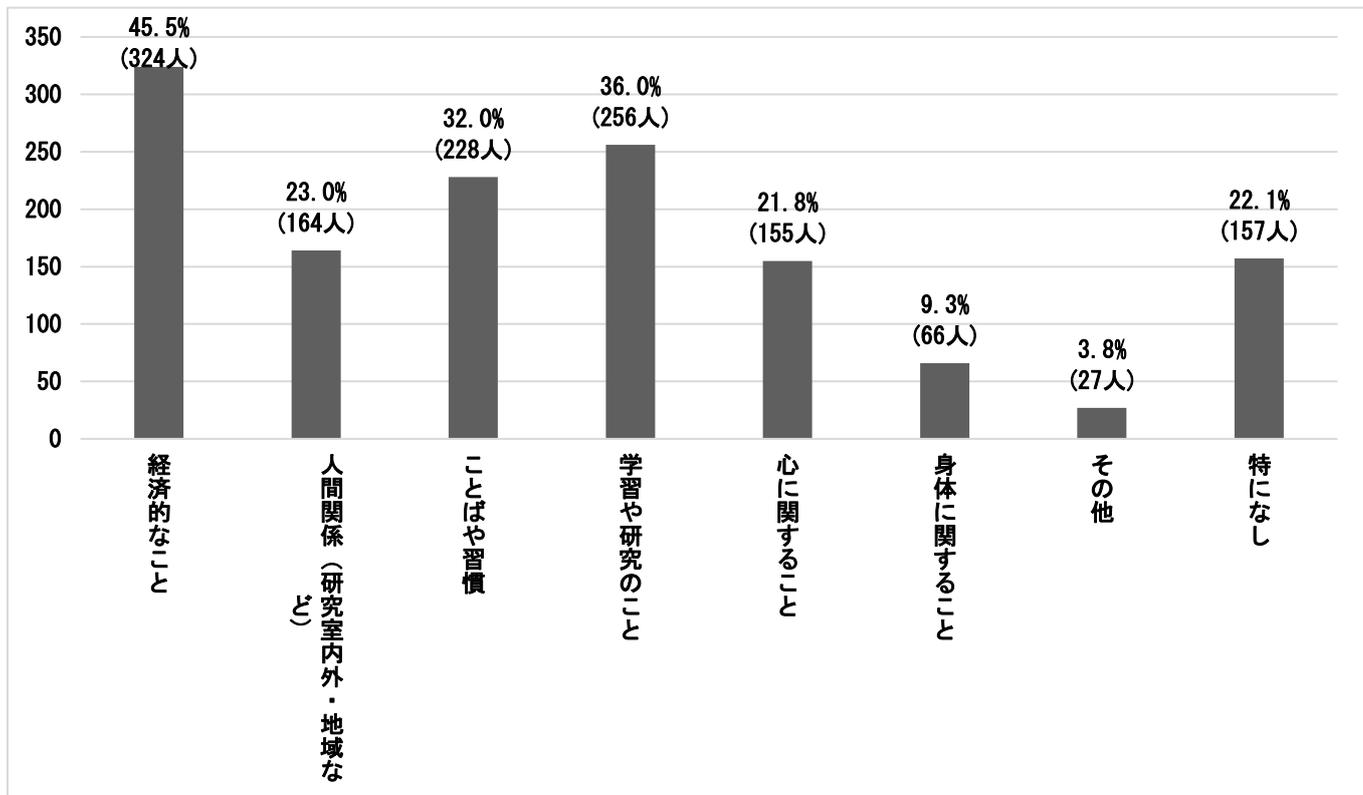
全体では、88.3%もの学生が「満足している」と回答しており、圧倒的な結果となった。

「指導教員とのコミュニケーションが難しい」と回答した学生の割合は、特別聴講学生が最も高い結果（言語の問題が原因：14.8%，言語以外の問題が原因：11.1%）となった。

「将来を考えると現在の研究内容では不安がある」と回答した学生は、文系9.3%，理系が4.4%となり、文系学生が将来に不安を感じている割合が高いことが伺える。

4. 学生生活支援について

4.1 学生生活の中で困っていることがありますか？（複数回答可）



		経済的なこと		人間関係（研究室内外・地域など）		ことばや習慣		学習や研究のこと		計 n(人)
		n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	
全体		324	45.5	164	23.0	228	32.0	256	36.0	712
学籍	学部生	13	40.6	10	31.3	8	25.0	9	28.1	32
	博士課程前期	156	46.4	72	21.4	98	29.2	123	36.6	336
	博士課程後期	109	50.9	41	19.2	74	34.6	77	36.0	214
	研究生	28	32.2	29	33.3	32	36.8	35	40.2	87
	特別聴講学生	17	41.5	12	29.3	16	39.0	12	29.3	41
	その他	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2
私費・国費	私費	287	57.5	120	24.0	138	27.7	196	39.3	499
	国費	21	18.4	23	20.2	47	41.2	32	28.1	114
	政府派遣	3	10.7	10	35.7	17	60.7	5	17.9	28
	その他	13	18.3	11	15.5	26	36.6	23	32.4	71
専門	理系	115	40.8	51	18.1	102	36.2	80	28.4	282
	文系	182	51.7	102	29.0	94	26.7	149	42.3	352
	その他	27	34.6	11	14.1	32	41.0	27	34.6	78

前年度調査と比較し、ことばや習慣について困っていると回答した学生が大幅に減少した。（前年度 41.8%）。一方で経済的なこと（前年度 38.9%）、学習や研究のこと（前年度 32.3%）、心に関すること（前年度 17.5%）について困っている学生の割合は増加している。

【人間関係】

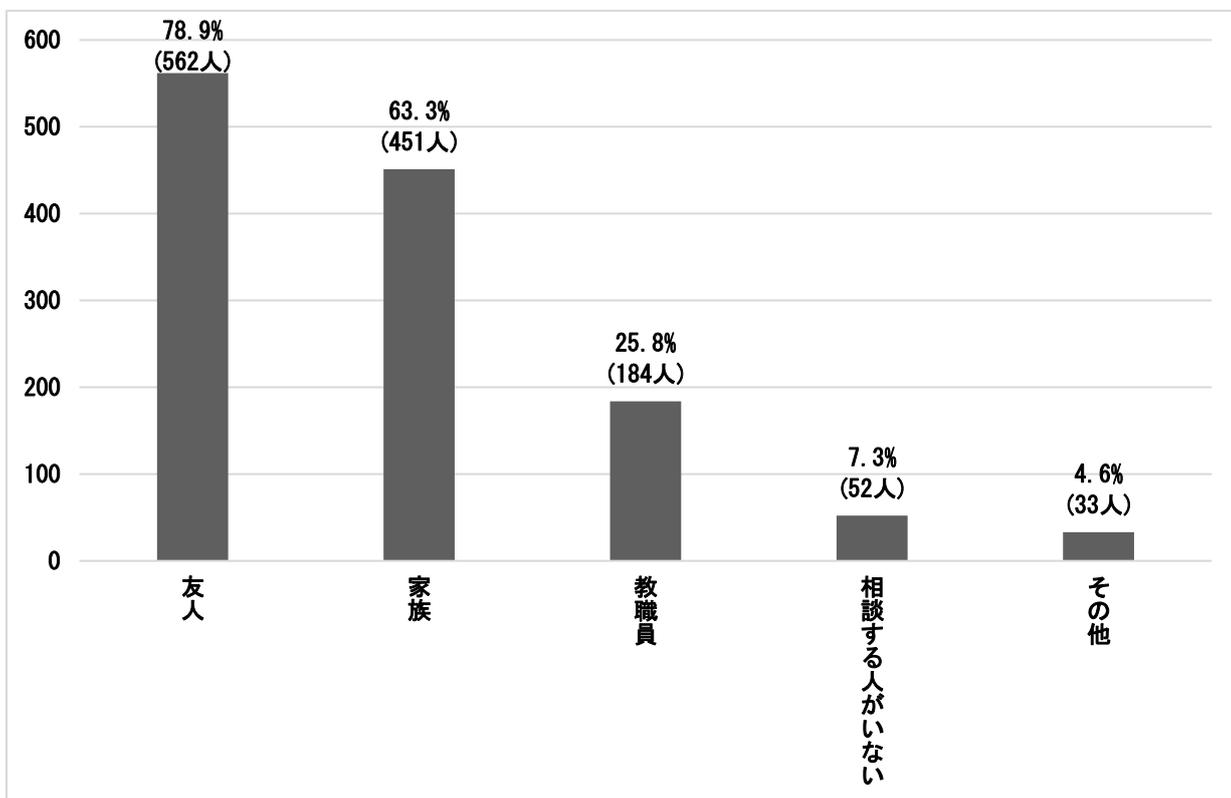
政府派遣の学生は、他の学生と比較し「人間関係について困っている」と回答した割合が高い結果（35.7%）となった（全体：23.0%）。同様に「ことばや習慣について困っている」と回答した割合も高く、日本語の読む・書く・聞く・話す能力について「あまりできない」「全くできない」と回答した割合が高いことと相関関係があるものと考えられる。

【学習や研究のこと】

「学習や研究のことについて困っている」と回答した学生の割合は文系が最も高く、約4割にのぼった。

4.2 困ったことがあるときにはおもに誰に相談しますか？（複数回答可）

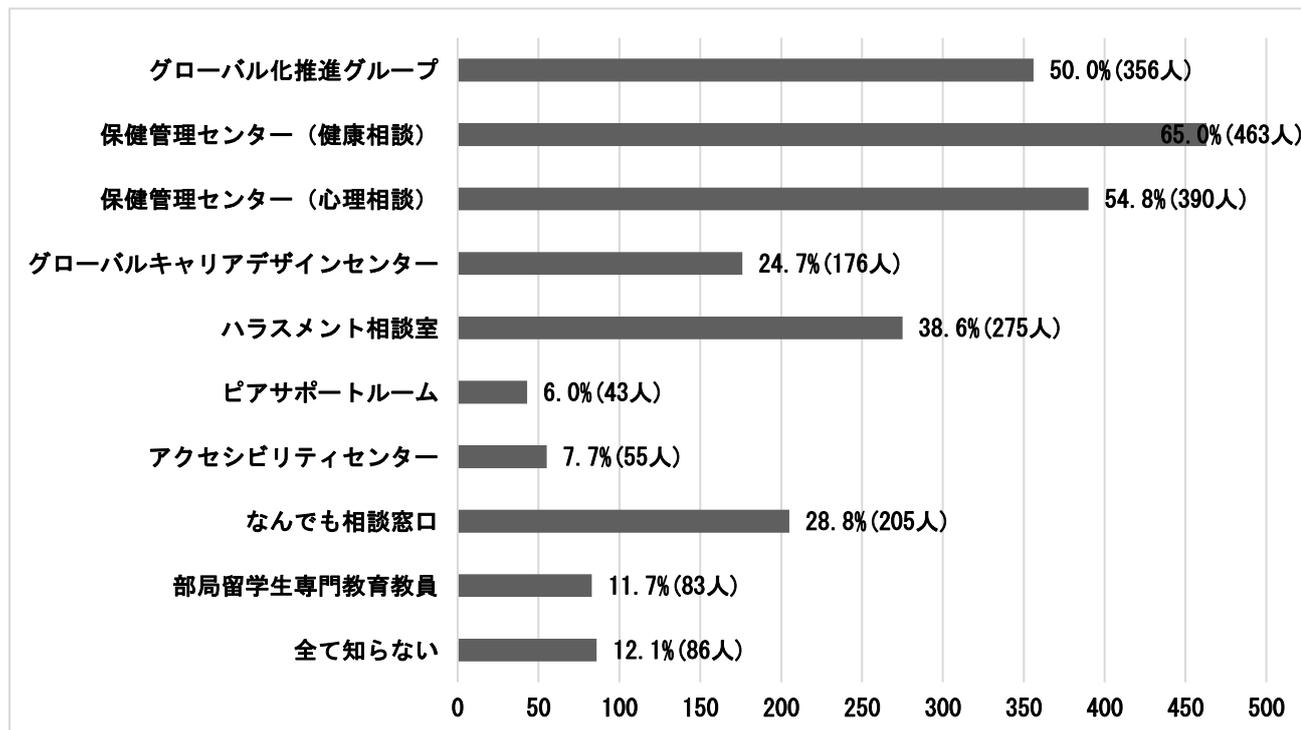
【回答者全体】



困ったときの相談相手として、全体の78.9%が「友人」と回答しており、家族（63.3%）、教職員（25.8%）と続く。前年度調査と比較し、大きな変化は見受けられない。

4.3 学生生活支援のための次の相談窓口があることを知っていますか？（複数回答可）

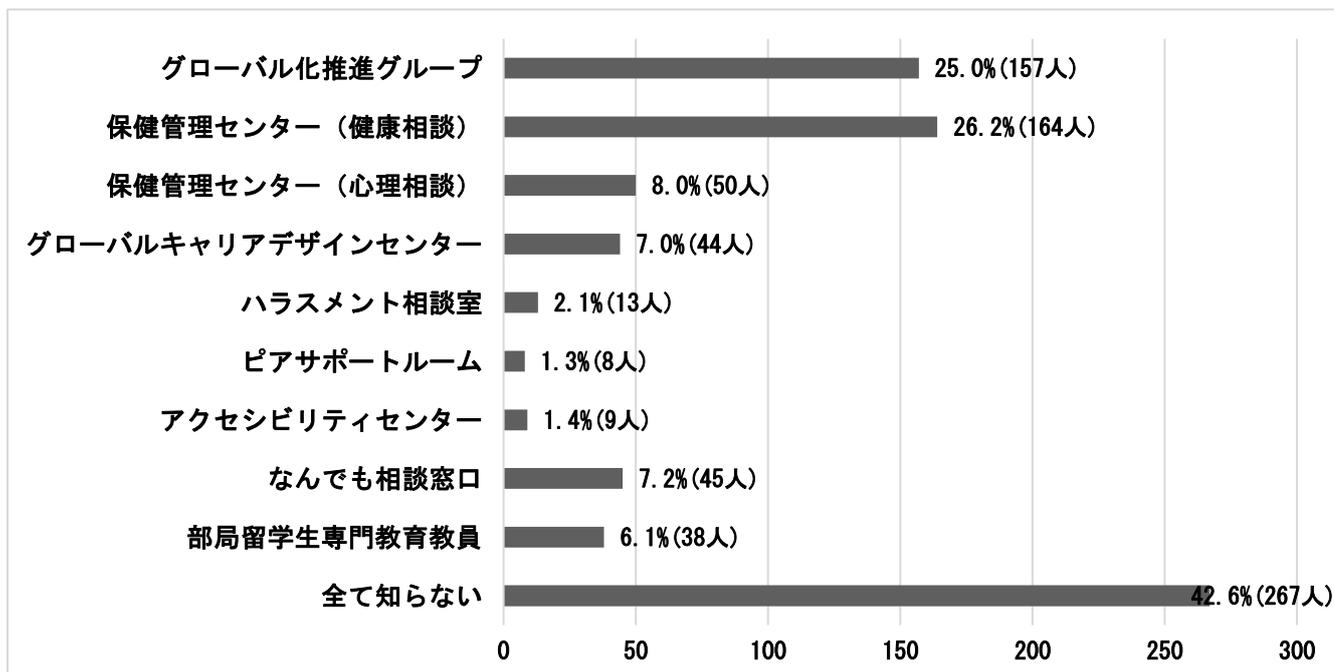
【回答者全体】



前年度調査と比較し、なんでも相談窓口の認知率が大きく上昇した（前年度：12.0%）一方でグローバル化推進グループの認知度は大きく下降した（前年度：67.0%）。グローバル化推進グループの認知度の低下の原因として、①名称変更（国際交流グループ→グローバル化推進グループ）②新型コロナウイルス感染拡大により、当グループから国際交流イベント等の情報提供をする機会が減少したことなどが考えられる。

4.4 学生生活支援のための 次の相談窓口を利用したことがありますか？（複数回答可）

【回答者全体】



前年度調査と比較したところ、グローバル化推進グループの窓口を利用したことがあると回答した学生の割合が大きく低下した。（前年度 39.8%）

要因として、新型コロナウイルス感染拡大防止のためにウェルカムデスクを休止したことや、国際交流イベントの開催を見合わせたことなどが考えられる。

設問 4.4 で得られた回答数（利用度）を設問 4.3 で得られた回答数（認知度）で除することで得られた数値が大きいほど、A「学生にとって身近である（=知っているし、利用したこともある）」という見方ができ、反面その数値が小さい場合は B「認知はされているが利用した人が少ない」ことが読み取れる。

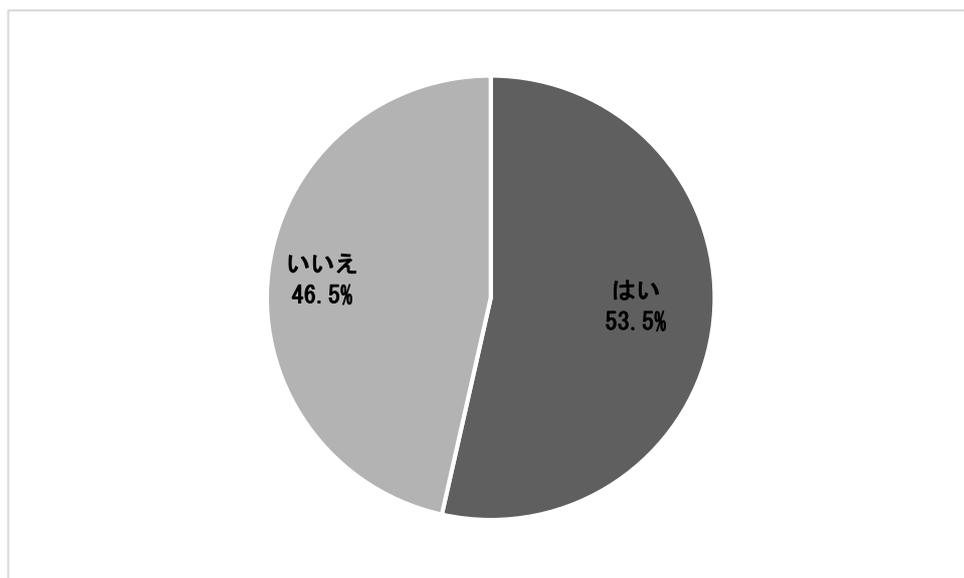
	A（知っているし、利用したこともある）	B（知っているが、利用したことはない）
1	部局留学生専門教育教員 45.8	ハラスメント相談室 4.7
2	グローバル化推進グループ 44.1	保健管理センター（心理相談） 12.8
3	保健管理センター（健康相談） 35.4	アクセシビリティセンター 16.4

取り扱う問題が心理面や人間関係と密接になるに従い、数字が小さくなる（B に近づく）傾向が見られる。

前年度調査と比較し、部局留学生専門教育教員の数値が上昇しており（前年度 35.1）、学生にとってより身近な存在になっていることがうかがえる。

4.5 あなたは日本の企業への就職を希望していますか？（有効回答 440）

【回答者全体】



回答者全体のうち、およそ半数が日本企業への就職を希望している。

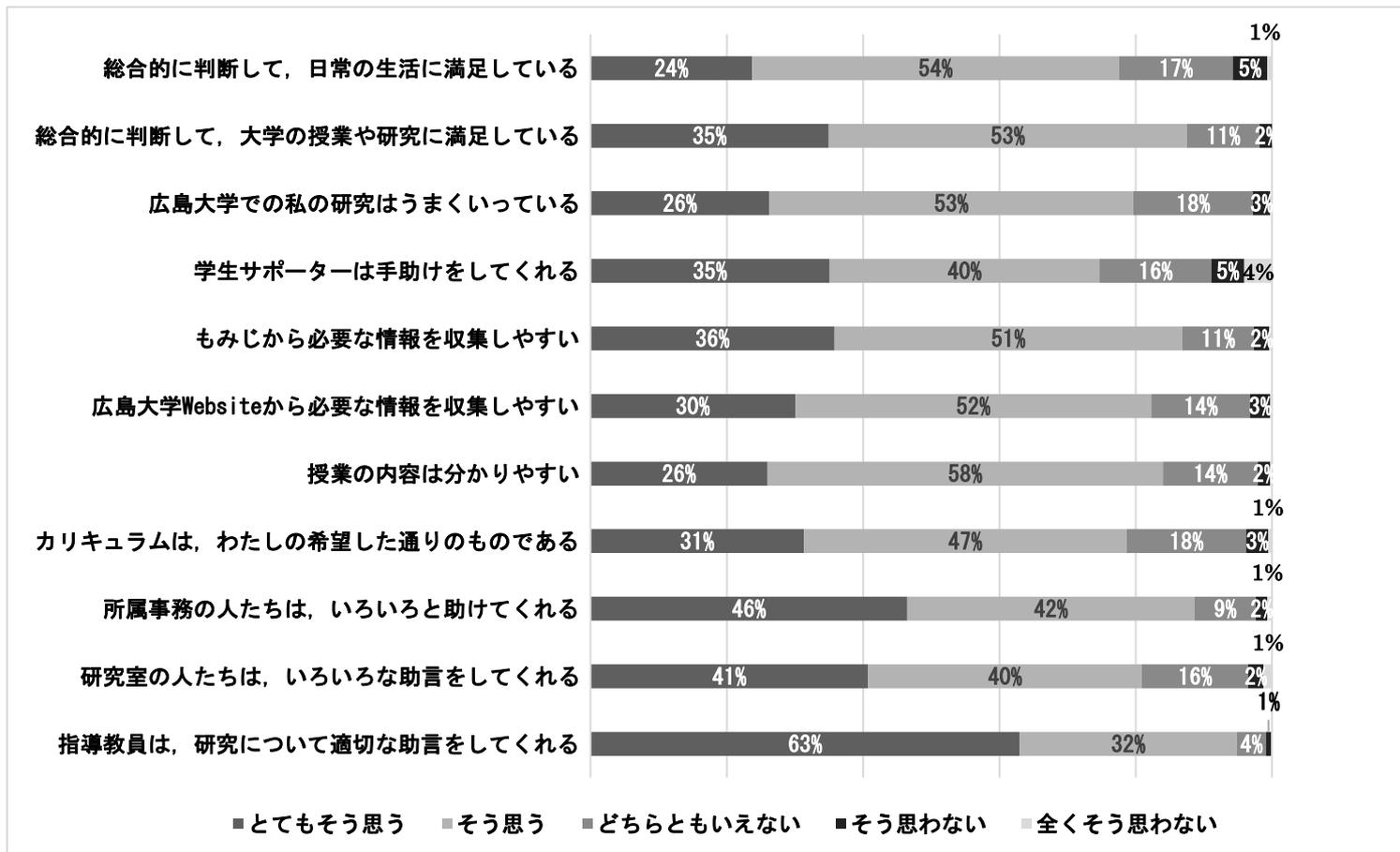
		はい		いいえ		計
		n(人)	%	n(人)	%	n(人)
全体		381	53.5	331	46.5	712
学籍	学部生	22	68.8	10	31.3	32
	博士課程前期	165	49.1	171	50.9	336
	博士課程後期	111	51.9	103	48.1	214
	研究生	61	70.1	26	29.9	87
	特別聴講学生	21	51.2	20	48.8	41
	その他	1	50.0	1	50.0	2

学籍別に比較したところ、学部生・研究生が日本企業への就職を希望している割合が高い結果となった。

【設問 4.4 との比較】

全体の約半数の留学生が「日本企業への就職を希望する」と回答しているのに対し、設問 4.4 で「グローバルキャリアデザインセンターを利用したことがある」と回答した留学生は全体の 7.0%に留まっている。

5. 広島大学における学習，生活に関する満足度



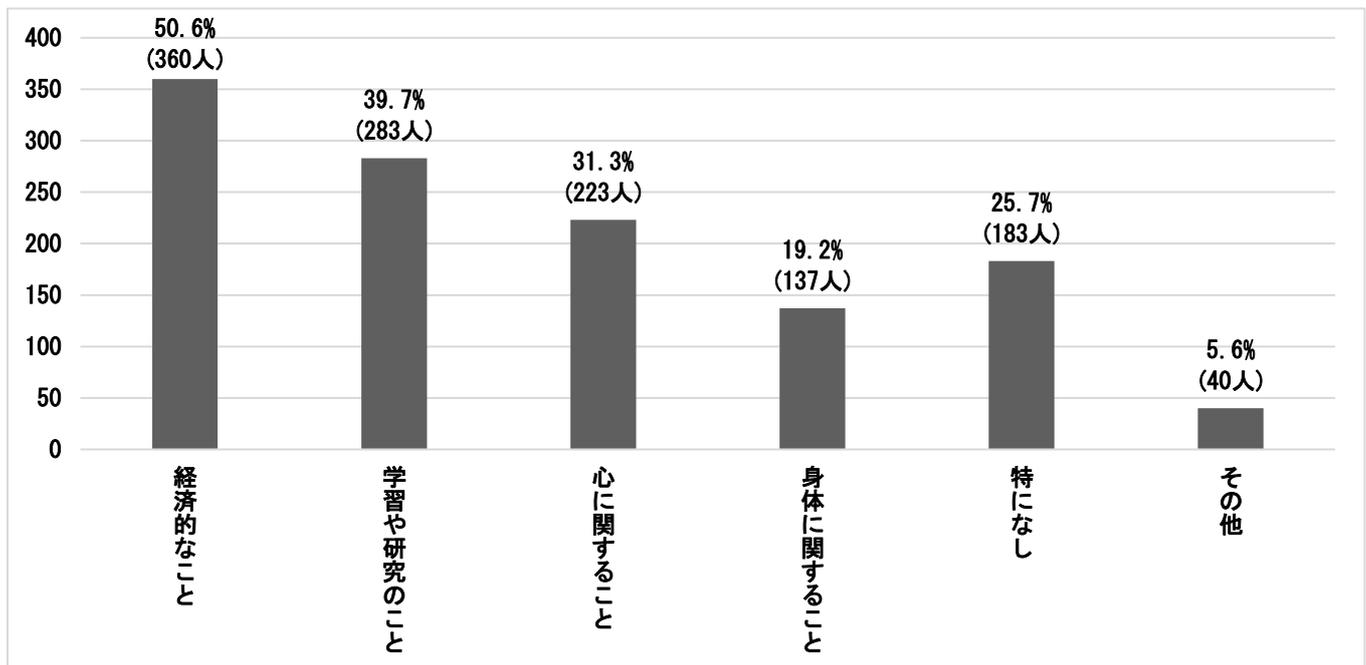
留学生満足度の平均値経年比較

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	
									前年度との比較 (0.05ポイント以上の変化)	
指導教員は，研究について適切な助言をしてくれる	4.46	4.40	4.43	4.34	4.36	4.52	4.47	4.52	4.57	↑
研究室の人たちは，いろいろな助言をしてくれる	4.07	4.00	4.08	4.11	4.02	4.12	4.05	4.13	4.17	変化なし
所属事務の人たちは，いろいろと助けてくれる	4.27	4.21	4.25	4.32	4.34	4.35	4.31	4.36	4.32	変化なし
カリキュラムは，私の希望した通りのものである	3.80	3.73	3.75	3.89	3.96	4.03	4.01	3.98	4.06	↑
授業の内容はわかりやすい	3.66	3.76	3.76	3.88	3.84	3.93	3.99	3.91	4.08	↑
広島大学Websiteから必要な情報は収集しやすい	3.82	3.83	3.86	3.99	3.99	4.03	4.06	4.12	4.09	変化なし
もみじから必要な情報は収集しやすい					4.12	4.17	4.20	4.26	4.2	↓
学生サポーターは手助けをしてくれる	3.86	3.88	3.86	4.08	4.02	4.00	3.99	3.98	3.97	変化なし
広島大学での私の研究はうまくいっている	3.91	3.93	3.87	3.92	3.96	4.04	4.00	4.09	4.03	↓
総合的に判断して，大学の授業や研究に満足している	4.13	4.11	4.12	4.10	4.16	4.14	4.17	4.22	4.21	変化なし
総合的に判断して，日常生活に満足している	4.02	4.03	4.03	4.02	4.02	3.99	3.98	4.05	3.95	↓

2012年以降の数値と比較したところ，日常生活の満足度が最低となっている一方で授業の内容への満足度は最高となっている。

6. 新型コロナウイルス感染拡大の影響について

6.1 新型コロナウイルスの流行により、困ったこと、または現在困っていることはありますか (有効回答 712)



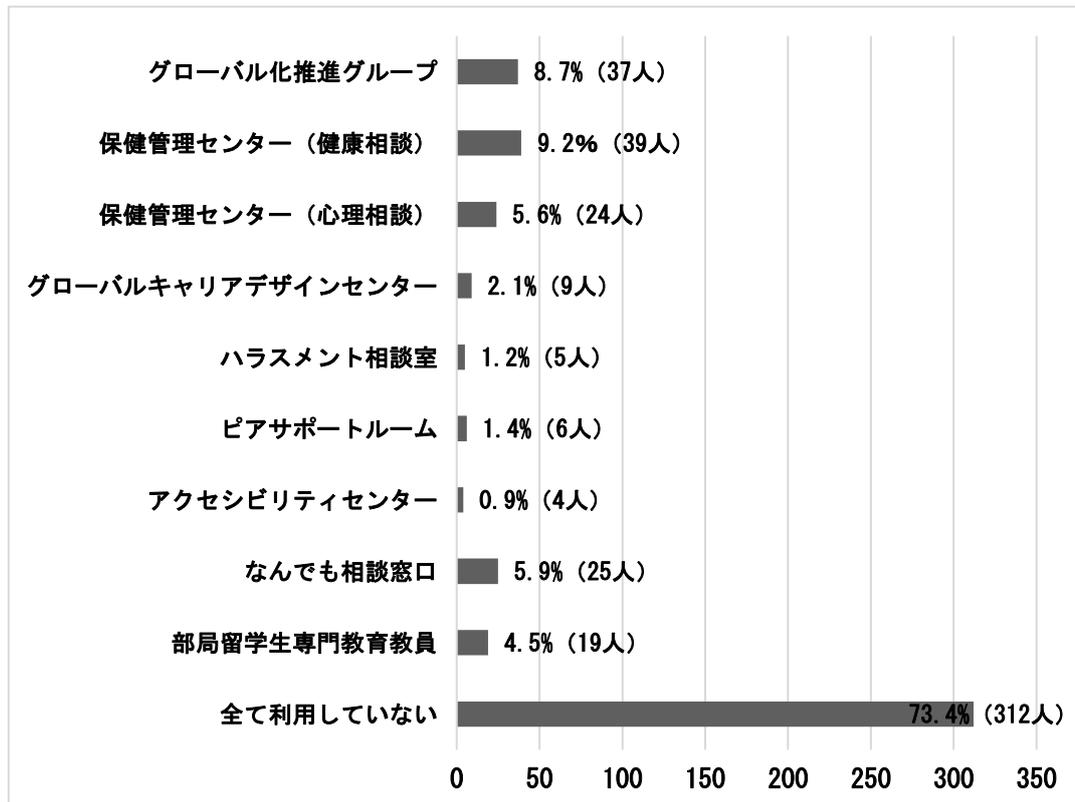
		経済的なこと		学習や研究のこと		心に関すること		身体に関すること		計 n(人)
		n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	
全体		360	50.6	283	39.7	223	31.3	137	19.2	712
私費・ 国費	私費	310	62.1	201	40.3	154	30.9	111	22.2	499
	国費	26	22.8	41	36.0	38	33.3	13	11.4	114
	政府 派遣	6	21.4	12	42.9	11	39.3	4	14.3	28
	その他	18	25.4	29	40.8	20	28.2	9	12.7	71
専門	理系	125	44.3	92	32.6	77	27.3	41	14.5	282
	文系	200	56.8	159	45.2	126	35.8	88	25.0	352
	その他	35	44.9	32	41.0	20	25.6	8	10.3	78

設問 4.1 (学生生活の中で困っていることがありますか?) の回答と比較し、新型コロナウイルスの影響により学習・研究面、心理面、身体面で「困ったことがある・現在困っている」と回答した学生の割合が大きく増加した。経済面について同様の回答をした学生の割合は大きく増えてはいないものの、私費留学生の約6割が経済的に困った経験がある結果となっている。

専門別に比較した際、特に文系の学生が「困ったことがある・現在困っている」の割合が全体と比較して高い特徴が見られた。

6.2 「特になし」以外を答えた場合、次の相談窓口を利用しましたか。（複数回答可）

（有効回答 425）



		グローバル化推進G		保健管理センター（健康相談）		保健管理センター（心理相談）		なんでも相談窓口		部局留学生専門教育教員		計 n(人)
		n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	
全体		37	8.7	39	9.2	24	5.6	25	5.9	19	4.5	425
専門	理系	8	5.1	19	12.1	11	7.0	10	6.4	12	7.6	157
	文系	24	10.7	18	8.0	10	4.5	15	6.7	3	1.3	224
	その他	5	11.4	2	4.5	3	6.8	0	0.0	4	9.1	44

「全て利用していない」と回答した学生が約7割となり、圧倒的な結果となった。アンケート実施時点で渡日できていない学生も対象者に含まれているため、実際に日本に滞在する学生に範囲を絞った場合「全て利用していない」割合は低下する可能性がある。

専門別に比較した際、文系の学生の方が「困ったことがある・現在困っている」の割合が全体と比較して高かったにもかかわらず、「窓口を利用したことがある」と回答した学生の割合が低い傾向がみられた。設問4.3（学生生活支援のための次の相談窓口があることを知っていますか？）において、各相談窓口について「知っている」と回答した文系の学生の割合は、他の専門の学生と比較しても低くはないため、相談窓口があることを知りつつ相談しない・できないという学生が一定数存在する可能性がある。

7. 自由記述（質問項目「なにか意見がありましたら、書いてください。」）

「特になし」等の回答を除き 46 名が回答。内容を以下にまとめる。

【経済的なこと】

- ・大学院生や大学院を目指す学生に対する経済的サポートがほしい。
- ・奨学金，授業料免除，生活費補助等の経済支援を拡充してほしい。
- ・授業料免除の手続きが複雑である。人数制限の情報等について周知してほしい。
- ・授業料が高く，アルバイトをすることに不安があるため金銭的に余裕がない。
- ・大学内や研究室周辺でアルバイトをしたい。

【人間関係】

- ・学生がお互いに交流できる場所や機会を提供してほしい。
- ・日本人の友人ができず，サポートネットワークが形成されていない留学生が多い。

【新型コロナウイルス関係】

- ・早く渡日したい。
- ・入国できていないため，論文等の資料収集が困難であった。
- ・新型コロナウイルスの感染状況が悪化したら，休校にしてほしい。

【大学の支援体制】

- ・大学の設備や相談窓口についてもっと広報してほしい。
- ・学生支援室の対応に不満がある。
- ・東千田キャンパスにファイナンス専攻の支援室がほしい。
- ・大学のウェブサイトで，留学希望者向けの情報（先生の研究内容，提出書類等）をわかりやすく提供してほしい。
- ・大学のウェブサイトでの情報収集が難しい。
- ・もみじの個人掲示板で，既読の掲示をもう一度確認できるようにしてほしい。（※掲示検索機能あり）
- ・保健管理センターの医師によるサービスをもっと提供してほしい。
- ・言語の問題で大学内のカウンセラーに相談できないため，外部のカウンセラーに相談する際の費用援助をしてほしい。
- ・留学生にハラスメントをする教員に対し懲罰を強化してほしい。
- ・留学生の人間関係とメンタルヘルスに留意してほしい。

【その他】

- ・現在の大学生活に満足している
- ・相談をしたい時があるが，日本語で自分の考えを伝えられるか少し不安である
- ・大学の施設がわかりにくい
- ・入居前に留学生推奨アパートの詳細を知ることができないにもかかわらず，渡日後宿舎を変更しようとする多額の費用が発生することに不満がある。

- ・ 中央図書館の木製のテーブルとイスの高さは背の高い人達にとって不便である
- ・ 飲み会等をできるだけ制限してほしい
- ・ 留学生に対してもっと寛容な風潮になってほしい。
- ・ 生協のメニューを豊富にしてほしい。生協以外のレストランがほしい。